

鉄道沿線における局地的短時間豪雨時の流出・氾濫影響評価手法

渡邊諭 湯浅友輝 馬目凌

近年の地球規模の気候変動により、国内においても短時間で局地的に記録的な豪雨が発生する事象が増えており、都市部では河川の氾濫による浸水や内水氾濫による被害が増加しています。本研究では、それら氾濫・浸水ハザードを運行管理にリアルタイムに利用することを目指しています。本報告では、流出・氾濫解析モデルの妥当性について、数値地形精度をパラメータとした解析を行い氾濫域の評価に適用する数値地形精度の検証を行いました。その結果、数値地形精度が25m以下であれば最大浸水深はやや低めに評価されるものの浸水範囲は概ね一致することを確認しました。また、システム化に向けた検討として降雨規模と計算

負荷との関係をとりました。本報告の内容の一部は、総合科学技術・イノベーション会議のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)「レジリエントな防災・減災技術の強化」(管理法人:JST)により実施したものです。

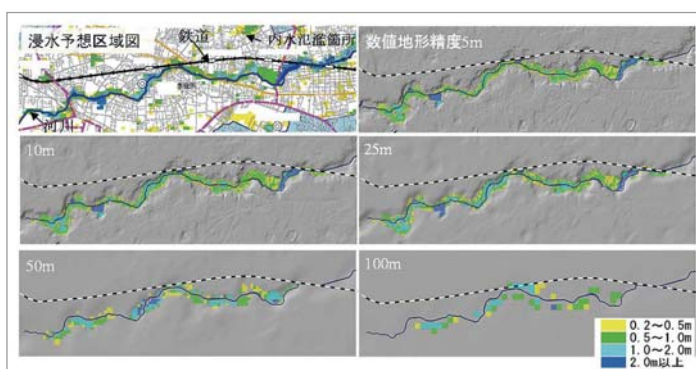


図 流域全体における最大浸水深と浸水範囲の比較